

## 「ええとですね」形式の談話管理機能

富樫純一（筑波大学大学院）

<キーワード> 心的操作標識、記憶領域、スクリプト、「ええと」、「あの」、「ね」

### <要旨>

談話に現れる「ええとですね」形式は、その発話制約および機能の面で、「ええと」とは異なった振る舞いを見せる。「ええとですね」形式はturnの冒頭に現れ、そして文中には現れないという発話制約が導出できる。そこから、「ええとですね」形式は知識情報の管理ではなく、会話参加者に対応する「スクリプト」という情報を管理していることのモニター標識として位置付けられる。

### 0. 問題の所在

本発表において出発点となるのは、以下の例における相対的な許容度の差である。

- (1)a ええと、ええと、今後の日程について提案なんですが...
- b ええとですね、ええと、今後の日程について提案なんですが...
- c ??ええと、ええとですね、今後の日程について提案なんですが...
- d ??ええとですね、ええとですね、今後の日程について提案なんですが...

このように、「ええと」に「ですね」が付いた「ええとですね」は、「ええと」単独の場合とは異なった振る舞いを見せる。「ええと」は、検索・計算という話し手の心内の情報処理操作をモニターする心的操作標識である。それにも関わらず、会話参加者に対するポライトネスを示す「ですね」が付くということは、「ええとですね」が単に「心的操作標識 + ですね」として機能しているのではなく、それ以上の何らかの機能を有しているのではないかと考えられる。逆に言えば、心的操作標識でしかない「ええと」に何故、ていねい体の「ですね」形が付与し得るのかという問題でもある。

本発表では、このような、談話に見られる「ええとですね」形式<sup>\*1</sup>についての分析を試みる。主に次の三点を検討する。

- (2) 「ええとですね」形式の生起位置に関する制約
- (3) 「ええとですね」形式の談話管理機能

---

\*1 「ええとですね」のように、心的操作標識に「ですね」が付く形は、「ええとですね」と「あのですね」の二つがある。本発表での議論は特に断らない限り、「ええとですね」「あのですね」の両者をまとめて「ええとですね」形式として行っている。したがって、例文(特に作例)での「ええとですね」「あのですね」は互換できるものとして扱っている。

(4) 「ええとですね」「あのですね」の比較

(2)では内省およびコーパスに基づき、生起位置に関しての制約記述を試みる。(3)では「ええと」と「ね」の両面からアプローチを行い、「ええとですね」形式の機能的な側面を考察する。

1. 発話制約の記述

1.節では「ええとですね」形式がどのような発話制約を持っているのかを検討する。

1.1. 生起位置

まず、「ええとですね」形式が生起する位置を考えてみる。結論を先に述べると、原則的に「ええとですね」形式は文頭に位置しやすいといえる。(5)の例を見られたい。

- (5)a ええとですね、昨日、たばこ屋の角で、古い友人にばったり会ったんですよ。  
b ??昨日、たばこ屋の角で、ええとですね、古い友人にばったり会ったんですよ。  
c 昨日、たばこ屋の角で、ええと、古い友人にばったり会ったんですよ。
- (6)a ええとですね、ということは、宝塚記念はスペシャルウィークで決まりですか？  
b ??ええとですね、宝塚記念はスペシャルウィークで決まりですか？  
c ええと、宝塚記念はスペシャルウィークで決まりですか？

「ええと」と「ええとですね」形式との機能的差異は後述するが、直感的な判断として、(5)b,(6)bのように文中に「ええとですね」が現れる表現は不自然である<sup>\*2</sup>。文頭に現れる(5)a,(6)aと比較しても明らかである。次の例を見てみる。

- (7)a 私が昨日ですね、山の中でですね、偶然 UFO をですね、見たわけなんですよ。  
b ?私が昨日ですね、あのーですね、山の中でですね、偶然 UFO をですね、見たわけなんですよ。

「ですね」(あるいは「ね」)はさまざまな要素に付加して(7)aのような発話を構成することが可能である。このような「+ですね」形が頻出する表現においても、「ええとですね」形式は文中に現れにくい。(多少、周りの「ですね」に引きずられた格好で、許容度は上がるかもしれない。しかし、それでもある程度の不自然さは残ると思われる。aの許容度にも不安があるが、それでも相対的にbのほうが下がるのではないか。)

\*2 「??」の付いている例は、内省の判断に揺れが生じる可能性がある。以降のいずれの例においても、「ええとですね」形式の直前にポーズを置いた場合、相対的に許容度が上がってしまうと思われ、話者の解釈が正しく解釈しようとする方向へと引っ張られている可能性が拭いきれない。そのため、本発表での判断はポーズを置かないものとして行っている。

また、「ええとですね」形式は文中に複数回現れることはできない。(8)を参照。

- (8)a ??ええとですね、ええとですね、今後の日程について提案なんですが…。 (= (1)d)  
b ??ええとですね、今後の日程について、ええとですね、提案なんですが…。  
c ??ええとですね、あのですね、今後の日程について提案なんですが…。

「文」の規定が曖昧であるが、(8)の例はいずれも不自然である。なお、これは「ええとですね」形式に限った制約ではなく、「接続詞 + ですね」も含めて考えることができる。

- (9)a ??ところでですね、ええとですね、ちょっと申し上げたいんですけども。  
b ??ええとですね、しかしですね、こんなことを言うのはなんですが。

さらには「ええとですね」形式とその他の心的操作標識との語順にも傾向性が見られる。

- (10)a あっ、ええとですね、今、思い出したんですけど…。  
b ??ええとですね、あっ、今、思い出したんですけど…。  
(11)A では説明して下さい。  
B はい、ええとですね、今回の新製品は従来のものとは大幅に異なり、…。  
(12)A では説明して下さい。  
B ??ええとですね、はい、今回の新製品は従来のものとは大幅に異なり、…。

当該会話における新規情報の獲得をモニターする「あっ」のような標識、あるいは応答詞の類は、「ええとですね」形式よりも前に位置するが、それ以外の心的操作標識は「ええとですね」形式の後ろに位置する。

ここまでの観察により、「ええとですね」形式の発話制約が大まかに記述できる。

- (13)(a) 「ええとですね」形式は文頭に位置する傾向にある。  
(b) 「ええとですね」形式および「接続詞 + ですね」形式は文中に複数回生起しない。  
逆に「ですね」形以外の心的操作標識の複数生起に制限はない。

これによって、(1)の許容度の差の説明が可能となる。

次節でコーパスによる確認を行い、制約の精錬を目指す。

## 1.2. コーパスによる確認

上の制約を裏付けるためにコーパスによる検証を行う。

- (14)2: ええと、できましたらば時給はもう少し高くいただけないものでしょうか？  
1: えっとですね、あの、まあ、10時から12時頃まではわりにあのやりたい人が

多くて、あのー店でアルバイトしてくれる人多いんですよ。だから500円ぐらいでもやってくれる子がいるんですよ。うーんまあ、朝早い時間はもしかしたらもう少し高くしてもいい、かなとは思いますが。

2:ええと、おいくらぐらいで？ (corpus 01.txt 116<sup>\*3</sup>)

(15)1:はい。っとー、当館としましてはーあのー、このような、条件で(2:はい)あのーアルバイトを、お願いしてるんですが(2:はい)。これで、よろしければ、あの、すぐ、始めていただきたいんですが。

2:そうですか(1:うん)。ええとですねー(1:うん)えー主にこれ夜のーお仕事ですよー。

1:はい。 (corpus 17.txt 89)

(16)1:あー、そうですか。あのー、まあ、色々世の中に仕事はあると思うんですけども、どうしてまた日本語を外国人に教えるって言う仕事を選んだんですか。

2:えーとですね、ぼくは、あの、大学時代、学生寮に住んでいまして、それで、そこは外国人の留学生もたくさんいる寮だったんですね(1:えー)。それで、あのー、なんか、こう言葉というものに興味を持って、もちろん言葉が通じるから分かり合えるわけではないですけど、言葉があるおかげで助かる部分っていうのがかなりあって、そういう関係の仕事についたらなあーと思って、それで結果的に日本語を教えるっていう方向に今おちつつ、おつき、落ち着きつつありますけれど。

1:あー、そうですか。あの、将来的にはどのような、あの、形の仕事を考えてらっしゃいますか。 (corpus 28.txt 15)

(17)1:どうぞよろしくお願ひします。えっとわたくし共の方はあの(2:はい)そういう条件なんですけれども、あのそれでよろしいでしょうか？

2:あのですねあのー、個人的にはですね(1:はい)、あの、日曜日なんですけれども(1:はい)あのー、学校の用事がありまして、

1:お休みでしょう？ (corpus 13.txt 75)

(18)1:お願ひいたします。

2:あのですね(1:はい)実はあのーゴミの件なんですけれども(1:はい)あのーこちらではどちらーに、あのー出したらいいのか(1:あ)え、ちょっとあのー分からないもんで(1:え)。教えていただけますでしょうか。

1:このアパートの(2:ええ)中にはないんです(2:ええ)。で外に出まして(2:ええ)あの、角に、この辺のかたたちが(2:はい)出す場所がありますので(2:はい)で、月水金、が燃えるゴミで(2:ええ、ええ)火木が燃えないゴミです。

(corpus 21.txt 91)

いずれも、文頭というよりは、turnの冒頭に位置することが確認される。つまり、発言権を得た直後に現れている。したがって、「ええとですね」形式の制約の「文頭」という表

\*3 「日本語会話データベースと談話分析プロジェクト」(<http://corpus.fit.ac.jp/>)のコーパスより。以下、'corpus' と記してあるものは全てそこからの引用。なお、表記の一部を変更している。

現は適切ではなく、より大きな単位レベルでの制約と捉え直す必要がある。

また、これらのコーパスを見る限り、相手の質問に対する応答の turn での冒頭に「ええとですね」形式が多く現れている。これは「ええとですね」形式の機能を説明する上で有効なポイントとなるのではないだろうか。

これを踏まえて、先の制約を変更すると以下ようになる。

(19)(a) 「ええとですね」形式は turn 冒頭に位置する傾向にある。

(b) 「ええとですね」形式および「接続詞 + ですね」形式は文中に複数回生起しない。  
逆に「ですね」形以外の心的操作標識の複数生起に制限はない。

ただし、コーパスでは上の制約からはずれる例も見られる。以下に挙げる。これらについては、2. 節の機能検討の後に説明を試みる。

(20)2: 1: あー 最後(1: そうですか) エンディングのタイトル、なんですね。  
1: じゃあ、あのー、あのですね、あのー、死ぬまで(2: ええ) あーかなり若い時に  
(2: そうですね) その病気になって(2: ええ) 死ぬまで。そうですか、なんか  
悲しい映画ですね。  
2: ええ、だから、重かったですけれども(1: ね) ん。 (corpus37.txt 117)

(21)1: あーそうですか(2: ええ)。なるほど。はい、ええっとところですね、あのー  
うーんと学生さん達ーは、あのー4が、3月になると、ええと入学試験を受ける  
ーわけですねー(2: はい)。どうですか? 最近のそのー成果というか。あは。  
2: あー、ええっとー、優秀な人達は(1: うん) わたしー達が教えたことと関係なく  
(1: うん) もう自力で入ります。 (corpus01.txt 48)

「ええとですね」形式は、(20)のような発話制約が認められる。では、このような制約を生み出す、「ええとですね」形式の機能とはどのようなものであろうか。次節でその考察を行う。

## 2. 「ええとですね」形式の機能

「ええとですね」形式の機能を考える上で不可欠なのは、「ええと」形式および「ね」の果たす役割である。これは、「ええと」形式および「ね」が「ええとですね」形式において必須の要素だからである。

(22) \*ですね / \*ええとです

また、「ええと」形式以外の他の心的操作標識に「ですね」が付かないことから、「ええと」形式が果たす役割は重要であると思われる。

- (23)a \*はいですね / \*うんですね / \*ああですね / \*ふーんですね / .....  
b ええとですね / あのですね

以下では、「ええと」形式と「ね」をそれぞれ分析し、「ええとですね」形式にどのような貢献をしているのかを探り、それを元に「ええとですね」形式の談話管理的な機能を導き出してみる。

## 2.1. 「ええと」

### 2.1.1. 「ええと」形式の先行研究

いわゆる心的操作標識の「ええと」形式を扱ったものとして、定延・田窪(1995)がある。定延・田窪(1995)は情報処理の記憶領域として「心的操作領域 = 心的データベース」を設定し、その内部に「作業領域」、心的バッファを設定している((24))。当面の対話は心的バッファにおいて当該発話の情報処理を行い、それで処理しきれない場合は心的データベースへ移動して情報処理を行いながら、進行していくものとしている((25))<sup>\*4</sup>。

(24) [心的データベース[心的バッファ]]

(25) 「...話し手が心的バッファでおこなう情報処理操作、および、(心的バッファにリンクされている情報だけでは対話が続行できなくなった話し手が心的バッファから心的データベースに戻って)心的データベースでおこなう心的操作、...」

(定延・田窪(1995), p.76)

このような心的な領域の設定に基づき、「ええと」「あの(一)」の機能説明を試みている。「ええと」「あの(一)」は、話し手自身の発話支援および話し手/聞き手間のコミュニケーションの円滑化の機能を持つものとしている。また、「ええと」と「あの(一)」の基本的用法の違いを次のように説明している。

(26) 「ええと」 ...心的データベースでの演算領域確保操作(および検索や計算等の演算処理操作)を標示する標識

(27) 「あの(一)」...心的データベースでの言語編集操作を標示する標識

### 2.1.2. 「ええとですね」の「ええと」

さて、この定延・田窪(1995)の考察を踏まえると、「ええとですね」形式の「ええと」は何らかの演算処理操作をモニターするものではなく、処理操作以前の処理領域確保操作を

---

\*4 金水・田窪(1998)などが設定している「I-領域」「D-領域」という概念も同じような記憶領域の分割である。「I-領域」=「心的データベース」、「D-領域」=「心的バッファ」であるが、本発表における考察では、定延・田窪(1995)の用語を用いることにする。

モニターしていると考えることができる。「ええと」も「あの(一)」も心的バッファから心的データベースへの処理領域の移動モニターがその根本的な機能であるので、「ええとですね」形式の「ええと」「あの」は区別なく、処理操作モニターとしてまで機能しているではなく、処理領域確保モニターとして機能しているのみであると仮定できる。

処理領域確保モニターでしかないという理由は、一つ目として、「ええとですね」の「ええと」が処理操作モニターも担っているとすると、文中でそのような処理操作が必要となるべき位置に出現できない、という制約の記述が説明不可能な点である。

- (28)a 結局、今日来るのって、ええと、35人でしたっけ？  
b ??結局、今日来るのって、ええとですね、35人でしたっけ？

発話制約の節で述べたとおり、「ええとですね」形式は文中には現れないので、文中で何らかの検索のような演算処理をモニターする場合、「ええとですね」形式を用いることはできない。つまり、処理操作モニターとして機能しているのではなく、処理領域確保操作モニターとして機能していると考えることができる。

二つ目の理由として、「ええとですね」形式はturn冒頭だけではなく、会話の話題そのものの冒頭にも現れうる点が挙げられる。(29)を見られたい。

- (29) A こんにちは。  
B あ、どうも。  
A あの一ですね、ちょっと頼みたいことがあるんですが....  
B はい、何でしょうか。

会話の開始部である、「挨拶 - 挨拶」の隣接ペアの直後の turn にも現れることができる。最初の話の導入部で「ええとですね」形式が現れるのである。このことは、「ええとですね」形式の「ええと」が会話を始めるに当たっての処理領域確保のモニターであって、「ええとですね」形式の発話時点で何らかの演算処理を行っているとは仮定しにくいことを示している<sup>\*5</sup>。

なお、「ええとですね」と「あのですね」は基本的に同じ機能を担うとすることができるが、「ええと」と「あの(一)」が検索、言語編集という異なった機能を持つように、この二つも若干の機能的な差異があると思われる。これは3.節で扱う。

では、確保された処理領域において行われる処理は果たして何なのであろうか。「ね」(および「ですね」)の役割を見ることで、そこに迫ってみたい。

---

\*5 かなり微妙であるが、(29)のような展開で「ええと」形式を用いると不躰な印象を与えやすいと思われる。これは、唐突に何らかの演算処理操作を示してしまうので、会話の最初からコミュニケーションが途切れてしまう結果となり、配慮を欠いた行動と捉えられかねないからであるといえる。

## 2.2. 「ね」

### 2.2.1. 終助詞「ね」の先行研究

終助詞の研究に関しては枚挙にいとまがないが、ここでは金水・田窪(1998)、および山森(1997)を取り上げる。

金水・田窪(1998)は終助詞「ね」の機能を記憶領域での処理操作のモニターとしている。

(30) 「そこで、「ね(え)」の機能を、記憶領域内において命題を断定に導くために行う論理計算の過程にあることの表明、と考えることにしよう。このような「ね(え)」の意味を、「計算中」と呼ぶことにする。なお、(10)のように一旦断定した命題に付いた場合は、「再計算中」であるといえる。

(10) 田中さんが来ましたね。 」 (金水・田窪(1998), p.262)

つまり、「ね」は記憶領域内で計算中ということを示すモニター標識と位置付けている。

しかし、金水・田窪(1998)の研究では、山森(1997)が指摘しているように、「名詞句+ね」や「談話標識+ね」が射程におさめられていない。その意味では、この結論(「計算中」モニター)を「ええとですね」形式に当てはめることは難しいのではないか。

山森(1997)では、単独で用いられる「ね」、そして「名詞句+ね」を範囲に含め、これらの「ね」は「会話の連鎖」を作る機能であるとしている。

(31) 「また、文頭に単独で現れる「ね」もあった。

(16) ね、ね、あのね、このあいだ NHK でね。

この「ね」も、以降の会話のフレームへの注意を呼びかけるもので、会話の連鎖を作る「ね」の機能が前面に押し出されたものと考えられよう。」

(山森(1997), p.143)

「会話の連鎖」という部分に関しては議論の余地があるが、(31)で挙げられているような、「会話のフレームへの注意」という点は示唆的である。「ええとですね」形式における「ね」は、「計算中のモニター」というよりも「フレームへの注意」としたほうがよりの確に役割を示していると思われる。

### 2.2.2. 「ええとですね」の「ね」

「ね」そのものの基本的機能をどこに求めるか」について検討するとなると、議論が煩雑になってしまう。したがって本発表では、「ええとですね」形式における「ね」は山森(1997)の、「会話フレームへの注意」と呼ぶような、会話参加者に配慮していることを表すマーカー、としてだけ位置付け、それ以上の議論には踏み入らないことにする。

(32) 「...発話以前あるいは以降で立ち上げられる会話のフレームを同定し、かつ、その継続を保証すべく機能している...」 (山森(1997), p.142)



このような捉え方をすれば、「ええとですね」形式の「ね」が会話参与者配慮の方向性を示していることは確実と思われる。ここで問題となるのは「会話のフレーム」であるが、これをどのように扱うかは次節で検討する。

### 2.3. 「スクリプト」という概念の設定

「会話のフレーム」なるものを考えていく上で、「スクリプト」という概念を導入してみたい。

いわゆる談話管理理論においては、会話の開始に関する処理がかなり理想化されていると思われる。「話し手は、対話する相手に応じて、当面必要な情報を知識(長期記憶、エピソード記憶)の中から引き出して準備する」(田窪(1990), p.837)のであるが、常に「対話する相手に応じて」会話の準備が都合よく設定されるとは限らない。つまり、相手に応じた表現形式(ていねい体や非ていねい体)などを会話開始時から常に理想的に都合よく選択できるとは言い切れないのである。「談話の初期値」(田窪(1990))が知識情報以外の情報をどのように設定しているのかが扱われていないのである。

吉川(1988)は、「場面のスクリプト」という概念を用いて、省略現象の分析を行っている。「スクリプト」とは(33)のように説明されている。

#### (33)場面のスクリプト：

「...過去の経験の蓄積のなかで...プロトタイプのシナリオが話し手・聞き手の双方の頭脳に潜在し、そのプロトタイプのシナリオ=スクリプトが、発話の場面に誘発されて意識の表面に浮かび上がり、次にどのような発話が続くのかを予測・察知されるのではないかと思われる。」  
(吉川(1988), p.66)

場面のスクリプトは話し手/聞き手の立場、会話の状況、共有知識、非共有知識といった、会話を展開させるにあたって必要となる対象と捉えられる。会話開始時(あるいはそれ以前)に構築される「話の枠組み」なのである。この場面のスクリプトはいわば経験知識の集積であるが、これを談話管理に組み込んで、会話参与者への対応方式を設定することができる。

#### (34)談話管理としての「スクリプト」： 会話参与者に対応した表現形式・話題

本発表では、「スクリプト」の概念を、(34)のように「会話参与者への対応」という方向性を持つものとして位置付ける。場面のスクリプトの中でも、特に、話し手/聞き手の立場を管理対象とするものである。「談話の初期値」には知識情報だけではなく、会話参与者に対応する情報も設定項目として存在していると仮定できる。記憶領域に何も情報(値)が設定されないまま、つまり真っ白な新規作成状態のまま、唐突に会話が始まることはあり得ないので、当然ながら「談話の初期値」を設定する(データベースから

必要な情報を記憶領域にコピーする)。しかし、単に話題の知識情報をコピーしただけでは会話は始まらない。スクリプトに関する情報も設定しなければならないのである\*6。

#### 2.4. 「ええとですね」形式の談話管理機能

前節までのいくつかの前提を「ええとですね」形式が持つ機能に投射してみたい。

まず、ここまでの観察で得られたことをまとめると、次の三点になる。

- (i) 「ええとですね」形式は文頭、特に turn を受け取った(turn を渡された)直後に現れる。(コーパスを見る限り、参加者の質問に回答する場面あるいは疑問に対して説明を行う場面で多く用いられている。つまり、質問 - 応答の隣接ペアの第二対に現れる。)
- (ii) 何らかの情報処理操作が必要となる状況で必ずしも「ええとですね」形式が出現するわけではない。
- (iii) 「ええとですね」形式は話題の冒頭にも現れうる。

これらの傾向から、「ええとですね」形式は会話参加者目当ての方向性を持つと捉えられる。そして、その機能は、「記憶領域にスクリプトを設定したことの表明(モニター)」であると規定することができる\*7。つまり、この標識の発話によって、当該の会話において「「です」と同等のポライトネスを持つ表現形式で発話する」という設定を行ったことがモニターされているのである。また、表現形式だけではなく、話題の選択にも影響を与えらると思われる。例えば目上の人に対してあまり個人的な話題は出さない、というような形で何らかの制限をかけているといえる。

「ええとですね」形式は、

- (35) 「ええと」 + 「です」 + 「ね」  
          ⋮                                  ⋮                                  ⋮  
          処理領域確保モニター スクリプト 会話参加者配慮の方向性

このような機能分担をなしているのである。確保された領域に「会話参加者に対応したスクリプト」を構築したことのモニターとして捉えられる。

- (36) A これ、どうやって使うの?  
      B ええとですね、まず、そのスイッチを押して下さい。

---

\*6 スクリプトという概念を導入すると、談話管理は、

(a) 談話管理 = 知識管理 + スクリプト管理

このように二つの管理対象を持つと考えられる。ただし、本当にスクリプトが知識とは独立した管理対象となっているのか疑問も残る。知識の一部として組み込めるかもしれない。今後の課題である。

\*7 「ええと」「あの」自体の機能を考慮すると、心的データベースにスクリプトが設定されることになる。

(36) BはAの質問に答えるために、まず、「ていねいな表現で発話する」というスクリプトを設定する。そのモニターとして「ええとですね」が現れるのである。

しかし、「ええとですね」形式が必ずしもスクリプト設定をモニターするわけではない。

(37) 「...話し手は、「ええと」や「あの(ー)」を使いながら、実際に演算領域確保や言語編集をおこなっているとは必ずしも限らない。話し手がおこなっているのは、あくまでそうした態度の「表出」にすぎないからである。」

(定延・田窪(1995), p.87)

このように「ええと」形式が心的操作という態度の「表出」であり、実際には演算処理をしていないが、そのような態度を示すことで会話の円滑な進行を促す機能も持つ。これは、「ええとですね」形式にも現れる。会話を円滑に進めるための方略に参与者対応の方略は欠かすことのできないものである。会話参与者に対して、きちんと「あなたとの会話のための」処理領域を確保していることを標示するのが「ええと」形式であるならば、会話参与者に対して「あなたとの会話のための」スクリプトを設定していることを標示するのが「ええとですね」形式なのである。しかし、このような「表出」はあくまで「ええとですね」形式の派生的な機能である。

まとめると、「ええとですね」形式の機能は(38)のようになる。

(38) 「ええとですね」形式の機能

- (a) 基本機能：記憶領域にスクリプトを設定したことの表明(モニター)
- (b) 派生機能：スクリプト設定の「表出」による会話の円滑な進行

スクリプトを機能の記述に含めると、「ええとですね」形式の機能は十分条件であって必要条件ではない、ということになる。なぜなら、スクリプト設定自体は「ええとですね」形式の発話に依存しないからである。会話におけるスクリプト設定は基本的に隣接ペアや非言語的文脈などにより行われると考えられる<sup>\*8</sup>。このことが、「ええとですね」形式の

---

\*8 会話冒頭の言語行動が果たす役割というのは、スクリプト設定において多大な貢献をしていると思われる。例えば、

(b) A おはよう。

B おはよう。

というような隣接ペアと、

(c) A おはようございます。

B おはよう。

このような隣接ペアとでは、その後の会話の表現形式が異なってくるはずである。特に参与者Bにおいては、明確な違いが顕現すると思われる。参与者Bは、参与者Aの表現形式を認識して、自分がどのような形式で話せばよいのかを選択していると考えられる。

つまり、スクリプトが記憶領域に会話冒頭の隣接ペアの時点で設定されることが考えられる。しかし、これは仮説に過ぎず、詳細な検討は今後の課題である。

頻度が低いことの一つの要因とも思われる。

したがって、「ええとですね」形式は会話の冒頭ではなく、話題の冒頭に現れる。コミュニケーションの開始を示すマーカーとはならないのである。

(39)(見知らぬ人に向かっていきなり)

??ええとですね / ??あのですね、市役所ってどこでしょうか？

これを踏まえると、「ええとですね」は、新規の状態(「談話の初期値」)からのスクリプト設定をモニターするのではなく、非言語的文脈あるいは隣接ペアの発話の時点で既に形成されたスクリプトを「明確化」する標識と言えるかもしれない。このあたりの捉え方に関してはまだ問題が残るところである。

(40)記憶領域に「です」で表されるようなスクリプトが(会話冒頭から)設定されていることの明確化の表明

最後に先に挙げた例外事例の説明を行ってみたい。

(41)1: じゃあ、あのー、あのですね、あのー、死ぬまで(2:ええ) あーかなり若い時に…。

(42)1: あーそうですか(2:ええ)。なるほど。はい、ええっところですね、あのー うーんと学生さん達ーは…。

これらの例は発話制約に反している例であるが、イレギュラーな処理を行っているものとして説明可能である。2.4節で述べた談話の管理の二つの要素、知識管理とスクリプト管理は、時間的にスクリプト管理のほうが先に行われると考えられる<sup>\*9</sup>。そうでないならば、設定されたスクリプトにそぐわない知識情報までも無意味に処理してしまうことになり、非常に効率が悪い。

これらの例外は、この処理順序が入れ替わったものである。その証拠として、「ええと」形式は音的に長くなっている。つまり、イレギュラーな処理を行ったであることの現れなのである。

### 3. 「ええとですね」と「あのですね」の比較

「ええとですね」形式はスクリプト設定のモニターであるが、「ええとですね」と「あのですね」の間に差異がないというわけではない。差異が現れる例を二つ挙げておく。

一つ目として、yes-no 疑問文の第二対での「ええとですね」の許容度が低い。

---

\*9 脚注8の事例もそれを裏付ける証拠となる。

- (43) A 論文、まだ出来てないって本当ですか？  
B ??ええとですね / あのーですね、本当です。

二つ目として、話題が転換する turn で「あのですね」の許容度が低い。

- (44) A こんにちは。  
B あ、こんにちは。  
A 昨日はお疲れさまでした。  
B 大変でしたねえ。  
A ?あのですね / ええとですね、関係ないんですけど、話しておきたいことが...

これらは、「ええと」「あの」自体の機能的差異によると考えられる。(43)は単に yes か no かで答えるべき所で複雑な処理を必要としないから、「ええと」が用いられにくい。逆に(44)は話題を変えることで複雑な処理を必要とするから、単なる言語編集の「あの」は用いにくいのである。

このような差異があるとすると、「ええとですね」形式もスクリプト設定以外の何らかの処理操作モニターを兼ねていると考えることができるかもしれない<sup>\*10</sup>。

#### 4. おわりに

かなり荒削りな考察のため、問題は山積みである。一つは「ええとね」形式との関係。これが「非ていねい体」スクリプト設定のモニターになっているのかどうか。二つ目として、本文にも例が挙がっていたが、「接続詞+ですね」あるいは「そうですね」などの標識との関係についても踏み込む必要がある。三つ目として、若干の素描は行ったが、スクリプトという概念が、談話管理においてどのような形で実現されるのかという点を詳細にすべきであり、いかに有効にスクリプトを扱うかが今後の大きな課題であるといえる。

---

\*10 しかし、現実的な問題として、「ええとですね」形式が多重モニター機能を担っているかどうか検証するのは非常に困難である。ただし、「ええとですね、ええと、……。」という語順での発話が可能であるところを見ると、やはり、「ええとですね」形式はスクリプト設定のモニターであって、それ以外の処理操作モニターは行っていないと仮定したほうがよいのではないだろうか。

## 主要参考文献

- Chafe, Wallace L.(1987) Cognitive constraints on information flow. *Coherence and grounding in discourse*, ed. by R. Tomlin, John Benjamins Publishing Company.
- 金水敏・田窪行則(1998) 「談話管理理論に基づく「よ」「ね」「よね」の研究」『音声による人間と機械の対話』オーム社
- 北野浩章(1993) 「日本語の終助詞「ね」の持つ基本的な機能について」『言語学研究』12 京都大学言語学研究会
- 野田尚史(1998) 「「ていねいさ」からみた文章・談話の構造」『国語学』194
- Sacks, Harvey, Schegloff, Emanuel A. and Jefferson, Gail(1974) A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 50
- 定延利之・田窪行則(1995) 「談話における心的操作モニター機構 心的操作標識「ええと」「あー」」『言語研究』No.108
- 田窪行則(1990) 「対話における知識管理について 対話モデルからみた日本語の特性」『アジアの諸言語と一般言語学』崎山理・佐藤昭裕編：三省堂
- 田窪行則(1992) 「談話管理の標識について」『文化言語学 その提言と建設』三省堂
- 田窪行則(1995) 「音声対話の言語学的モデル 談話管理標識としての感動詞」『情報処理』Vol.36, No.11
- 田窪行則・金水敏(1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」『文法と音声』音声文法研究会編：くろしお出版
- 田中穂積(1992) 「談話の理解とメモリ・モデル」『認知科学ハンドブック』石崎・波多野編：共立出版
- 土屋菜穂子(1997) 「感動詞の分類 対話コーパスを資料として」平成9年度国語学会春季大会発表要旨
- 森山卓郎(1989) 「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』1 大阪大学文学部日文学科(言語系)
- 山森良枝(1997) 「終助詞の局所的情報処理機能」『コミュニケーションの自然誌』谷泰編：新曜社
- 吉川千鶴子(1988) 「場面のスクリプトと省略現象」『日本語学』Vol.7, No.3